

1 単元名 「平和の思いを未来へ～戦後80年の平和学習」

2 単元の目標

- 戦時中、広島や奈良県、王寺町で起こったことや当時の人々の暮らしなどを聞き取りや資料から理解し、他学年に伝わるようにまとめることができる。 (知識及び技能)
- 戦時中の広島や王寺町について、自分で調べたことや聞き取ったことから平和を続けていくためにはどうすればよいのか考え、意見をまとめることができる。 (思考力・判断力・表現力等)
- 命の尊さや他社への思いやりに気付き、平和を守るための行動について、自分にできることを考えようとする。 (主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

本単元では、戦争と平和に関わる歴史的事実を学ぶことを通して、子どもたちが「過去を知り、現在を見つめ、未来をつくる」という視点を育てることを目指す。そこで、広島と奈良県王寺町の2つの市町村を教材として取り上げる。

広島は、被爆の実相や被害を受けた人々の証言・遺品・場の記憶は、戦争が一人一人の生活と命を奪った事実を具体的に示しており、子どもたちが「戦争の悲惨さ」を一般化して捉えるのではなく、「もし自分だったら」「日常が失われるとはどういうことか」と個人の視点で受け止めるための手がかりとなる。

また、王寺町に残る空襲の被害の記録や戦争体験者の方の講話といった地域教材は、「戦争が自分たちの地域でも起きていたこと」として実感させ、平和が決して当たり前のもではないことを気付かせる教材である。

(2) 児童観

子どもたちに戦争について話しを聞いてみたところ、「戦争があって、広島と長崎に原子爆弾が落とされた。」という事実は大半が知っていた。しかし、「家で戦争について家族から教えてもらった。」「家族で戦争について話し会ったことがある。」という子どもたちはほとんどいなかった。このことから、戦争があったと事実を知識として知っているが、「自分自身の身に降りかかった場合、どうなるのか？」など自分自身を見つめなおすという機会がないことが伺える。また、両親が王寺町出身という家庭も少なく、多くの家庭は県外や他の市町村からの移住が多く、昔の王寺町を知る術が少ない児童が大半である。

学習に関しては、メディアセンターやパソコンを使って調べ学習に積極的に参加する子どもたちも多い。班での話し合いの活動やグループでまとめていく作業も積極的に行う児童が多い。

(3) 指導観

本単元では、戦争や被爆の歴史を扱う特性上、事実の重さを丁寧に扱いながらも、子どもが過度な恐怖や不安を抱かないよう、資料や指導の選択も十分に配慮して行う。

指導では、「悲惨さを伝えること」に重きを置くのではなく、当時を生きた人々の思いや願いに触れ、そこから自分自身の生き方や現在の社会のあり方を考えようとする態度を養うことを重視する。そこで、授業では、事実の提示に偏らず、子どもが感じたことや疑問を話し合える対話的な活動を行う。また、被爆者の講話や資料は、一方的な受け取りで終わらないように感想を共有したり、資料を読み解く時間を確保したりして行う。

また、「戦争は昔に終わったもの」「自分たちより遠くで起こっているもの」という捉え方にならないように、広島学習の後、王寺町の地域教材へと戻ってくる。そうすることで、歴史的事実の学習だけでなく、「平和は、誰かがつくってくれるものではなく、自分たちが支え合ってつくり続けるものである。」という主体的な姿勢の育成を目指したい。

そして、最後の締めくくりとして、平和集会を行うことで、6年生が後輩たちに戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝える活動を通して、主体的に活動する姿勢を育成し、後輩たちは、戦争や平和を考える機会にしたいと考える。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

相互性：広島だけでの出来事ではなく、自分たちの身近な所でも起こっていたことであり、関係しあい、平和が続いていること。

公平性：自分の思い通りに動きすぎると、不平不満が生まれ、争いが起こってしまう。相手のことも考えて行動すること。

責任性：戦後続いてきた平和を守り続けるのは、自分自身であり、他人任せにしないこと。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

他者と協力する態度：「平和」を守り続けていくためには、他者との協力も大切である。そして、協力しあい、後世に向けて情報発信していこうとする。

つながりを尊重する態度：つらい経験にも関わらず、お話ししてくれた語り部さんたちの平和への思いを自分たちが受け継ぎ、伝えていこうとする。

・本学習で変容を促すESDの価値観

世代間の公正：戦争を経験された方々だけが平和が続いていくように努力するのではなく、その方々の気持ちや活動により平和が続いていることを感じ、自分たちもその思いを受け、続けていこうとする。


・達成が期待されるSDGs

16 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

(ア)知識及び技能	(イ)思考力・判断力・表現力等	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
<p>①広島への被爆や当時の人々の暮らし、地域の戦時中の事象などについて学習した事実や背景を適切に理解している。</p> <p>②資料や講話、写真などから必要な情報を読み取り、事実と自分の考えを区別しながら整理している。</p>	<p>①学習した資料を比較したり、自分の体験、地域の歴史と関連付けたりしながら、戦争と平和について自分の考えをまとめている。</p> <p>②平和な社会をつくるために自分ができることを多角的な視点から考え表現している。</p>	<p>①学習を通して得た疑問や気付きをもとに、自ら調べたり、資料を比べたりしようとしている。</p> <p>②戦争や平和についての問題を、自分ごととして捉えようとし、他者の思いや地域の歴史を尊重している。</p>

5 単元の指導計画(全17時間)

学習活動	○学習への支援	○評価・備考
<p>1 広島への平和記念式典の準備の様子や「80」という数字から連想するものを考え今後の見通しをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年の夏、80という数字をよく見たよ。 ・式典の準備、みんな暑いのに必死でやっているね。それだけ大切なものなのかな？ 	<p>○学習への支援</p> <p>○式典の準備の様子の写真を出し、なぜこんな大掛かりな準備をしているのか考えさせ、広島の人々だけでなく、日本国民にとって、大切な式典であることをおさえる。</p> <p>○夏休みの宿題でやってきた平和新聞を紹介し、そこでも「80」という数字に触れている人を紹介し、友達も注目していることをおさえさせる。</p>	ウ①
<p>2、3 広島への戦争の被害や被爆の実態などを調べ、まとめる。</p>  <p>【他学年へ千羽鶴のお願い】</p> <p>4 資料館の見学や被爆者の方の講話を聴き、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○パソコンやメディアセンターの資料を活用し、戦争の被害や被爆の実態などを調べる。</p> <p>○調べた段階で疑問に思ったことや分かりにくいところ、もっと調べたいことなどを出しておく。</p> <p>○資料館の見方や講話の聴き方は、事前に自分たちが調べたことで、分かりにくいところや疑問に思ったところを解決できるように見ることが出来ることを伝える。</p> <p>○展示物や話しを聞いてしんどくなった場合は、無理に見なくてもいいことを伝える。</p>	ア②ウ①
<p>5、6 広島で見学した資料館や講話を聴いて感じたことなどをまとめ</p>	<p>○今までの調べ学習を通して、感じたことや分かったこと、今後どうしていき</p>	ア①イ①

<p>る。</p> <p>7、8 奈良県や王寺町の戦争の被害について調べ、まとめる。</p> <p>9 王寺町在住の戦争経験者の方の話しを聞き、自分の考えをまとめる。</p>  <p>【戦争体験者の方のお話】</p> <p>10、11 奈良県や王寺町の戦争の被害について調べたことや聞いて感じたことなどをまとめる。</p>	<p>たいのかなど具体的に記述するように伝える。</p> <p>○1学期に行った史跡巡りでボランティアガイドさんに教えてもらった内容にも触れる。</p> <p>○「私たちの町王寺」やメディアセンターの資料も活用するよう指導する。</p> <p>○司書さんに相談し、奈良県や王寺町の戦争に関する資料がないか事前に相談し、準備しておく。</p> <p>○事前に子どもたちが疑問に思っているところを確認しておき、当日はその話しに触れてもらえるようにしておく。</p> <p>○全てメモを取るのではなく、自分が疑問に思っていたところを中心にメモを取り、解決できるように伝える。</p> <p>○調べる前と後での自分の考えの変化や気付いたこと分かったことなどをまとめさせる。</p>	<p>ア②ウ①</p> <p>ア②ウ②</p> <p>ア①イ①</p>
<p>12、13、14、15 平和集会の準備を行う。</p>  <p>【平和学習についてまとめた成果物】</p> <p>16 平和集会を行う。</p> <p>17 平和学習のまとめを行う。</p>	<p>○広島戦争の被害や被爆の実態を伝えるだけでなく、王寺町の戦争の被害も伝えられるようにする。</p> <p>○どんなことを伝えると1年生から5年生までが平和について考えるきっかけになるのか自分の考えをまとめておく。</p> <p>○全体に伝わるように大きな声で伝えるように促す。また、内容などで声のトーンを変え、全体で平和について考えられる時間になるようにする。</p> <p>○平和学習を通して、自分の考えがどのように変わったのか、現在ある平和が続いていくために、自分にできることは何か考えさせ、まとめを書かせる。</p>	<p>イ②ウ①</p> <p>ウ②</p> <p>イ②ウ②</p>

6 成果と課題

○成果

今回の学習を通して得られた成果は3つある。1つ目は、子どもたち自身が「各学習が相互に関係している。」と実感できていたところである。今回の平和学習を進めていくにあたり、1学期にボランティアガイドさんによる町内の史跡案内の中で空襲の傷跡についてお話をいただいた。11月に町内に住む方をゲストティーチャーにお迎えし、戦争の話を聞いた。その中で空襲の話が出てきた際、「ガイドさんが言っていたやつや。」と気づく子どもがいたり、歴史の学習の際にも「これ、この前に聞いたやつや。」とそれぞれを関連させ、考えることができていた。

2つ目は、平和学習を進めていく中で空襲や原子爆弾を調べると「日本の戦争の被害は大きかった。」と被害の部分に目が行きがちであった。しかし、班で交流し進めていく中で、「満州事変で日本も被害を及ぼしたのではないかな。」と日本の加害の部分にも目を向け、総合的に考え進める姿が見られた。その中では、研修旅行で広島に行った際、被爆体験者の方の話の中で、「憎しみは憎しみしか産まない。だから許す。」という話があり、当初は「なんでかわからない。」と言っていたが、学習を進めていく中で、「日本も外国に被害を及ぼしていたからそこも考えないと」という発言も出てきた。

3つ目は、平和学習を進めていく中で、「自分たちも何か発表できないかな。」という発言がでるようになった。過去の事実を知って、「かわいそう」や「怖い」で終わるのではなく、「今の自分に何ができるのか。」という未来へのアクションに思考が向くようになった。実際に、コロナ禍で全校そろっての平和集会ができていなかったが、今年、開催し、1年生から5年生は平和について考える時間が生まれ、6年生にとっては、後輩に自分たちの学習を伝え、自信につながる結果となった。

○課題

多くの成果を得られた半面、課題も出てきた。1つ目は、学びが深めるにつれて、「これもできるんじゃないか。」「劇で伝えたらいいのではないか。」という案が出てきた。しかし、「自分にできること」の限界があり、「ここまでしかできないか。」と子どもたちが自由に考えて進めようとしていたことが出来ていない現状があった。当校には、9年生(中学3年生)がおり、沖縄に修学旅行に行っていたので、1学期に交流する機会をもつなどすることで、新たな方法が見つけれられたのではないかと考える。

2つ目に、地域の戦争についての情報量が少なかったという点がある。情報が少ないということは、「被害が少なかった。」という結果ではあるが、子どもたちが地域と関連させて学習を進めていく際は、教員側である程度の情報を把握することが大切であると実感した。地域で戦争体験を語ってくださる方も年々減ってきており、子どもたちにとっても生の声を聴ける機会が少なくなってきているので、このような機会をもう少し増やしていく必要があると実感した。

3つ目に、子どもたちの「行動の変容」を読み取るのが難しい点である。例えば、「戦争はいけないことだ。」という変容があったので良いとするのか、「後輩へ平和について伝えていかなければいけない。」というところまで目指すのか事前に確認し、進める必要があると実感した。



【平和集会の様子】



現在の学年終了時に目指す姿

戦争や原爆の被害について学ぶ中で、平和の尊さと命の重みを理解し、過去の出来事を自分事として捉えている。
また、現代の世界や自分たちの生活とのつながりを考え、多様な立場を尊重しながら、行動することができる。

社会科「わが国の政治のはたらき」

憲法をはじめとする政治の仕組みや、国民の権利と義務、民主主義の大切さについて学ぶとともに、憲法に示された平和主義や基本的人権の尊重を理解することで、平和な社会を支える根幹となる考え方を養う。

道徳「杉原千畝 ～大勢の命を守った外交官～」

第二次世界大戦下において、多くの困難がある中でも人として何が正しいのか考え、命を守る行動を選び続けた杉原千畝の生き方を学び、規則や立場を超えて人権と命を守ろうとした姿から良心に基づいて判断し、行動する大切さに気付く。

社会科「世界がゆがめる問題と日本の役割」

紛争や貧困など国境を越えて解決が求められる世界共通の課題について学び、日本が国際社会の中で果たしている役割を理解するとともに、国際連合の必要性についても知識を深める。

総合的な学習の時間 「広島への研修旅行」

実際に被爆された方の話を聞いたり、資料館の見学や平和集会を通して、原爆の脅威や戦争の悲惨さを学習し、平和な世の中を目指す根幹となる考え方を養う。

総合的な学習の時間 「王寺町戦争体験者の講話」

実際に体験された方の話を聞くことで、戦争が遠く離れた場所で起こったことではなく、自分たちが暮らす身近な場所で起こっていたことであると実感させる。

総合的な学習の時間 「王寺町史跡めぐり」

戦争が遠く離れた場所で起こったことではなく、自分たちが暮らす身近な場所で起こっていたことであると実感させ、説明や見学を通して、命の重みをより具体的に理解する。

社会科「アジア太平洋に広がる戦争」

日本が関わった戦争の広がりやその背景、そして戦争がアジア太平洋地域の人々の生活に与えた影響について学び、戦争が一国の問題ではなく、多くの国や地域の人々を巻き込み、深刻な被害をもたらした出来事だということを理解する。

総合的な学習の時間

「平和の思いを未来へ ～戦後80年の平和学習」

○主に養いたいESDの資質・能力

他者と協力する態度

「平和」を守り続けていくためには、他者との協力も大切である。協力し、情報発信していかうとする。

つながりを尊重する態度

つらい経験にも関わらず、お話してくれた語り部さんたちの平和への思いを自分たちが受け継ぎ、伝えていかうとする。

○主に育てたいESDの価値観

世代間の公正

戦争を経験された方々だけが平和が続いていくように努力するのではなく、その方々の気持ちや活動により平和が続いていることを感じ、自分たちもその思いを受け、続けていかうとする。

戦後、どのよう
に関わったの
かな？

広島では、このよう
な悲惨なことが起
こっていたんだ。

空襲の場面は、お話
を聞かせてもらっ
たことと同じ所が
あるね。

